

第86回 埼玉県駅伝競走大会

【出場結果】

実施日 : 2月3日(日)

コース : さいたま新都心駅前～熊谷スポーツ公園陸上競技場

総距離 : 6区間 42.195km チーム成績 : 2時間9分58秒 3/21位

出場者・リザルト	1区	小原 大輔	3/21位	20分03秒
	2区	平塚 祐三	4/21位	9分34秒
	3区	親崎 達朗	3/21位	37分05秒
	4区	土屋 天地	7/21位	12分50秒
	5区	加藤 平	1/21位	32分21秒
	6区	石原 洸	1/21位	18分05秒

【レポート】

当日は天候に恵まれ、絶好の駅伝日和の中、レースがスタートしました。

1区は、昨年続き、調子の上がっている小原を起用。先頭との距離を最小限に留め、次の走者にタスキを渡すことが役割の中、ラスト1.5km地点まで先頭集団で粘り切り、役割を十分に果たす先頭と20秒遅れで2区へ。

2区の平塚は3.1kmのショート区間を持前のスピードで一気に先頭と差を詰めましたが、体調が万全でないため中盤以降の伸びに欠け、先頭とは更に50'まで差をつけられる展開で3区へ。

3区のエース区間は、入社から調子の安定している親崎を起用。親崎は3'04"/km平均の冷静な走りで先頭を走る武蔵野学院を追い、武蔵野学院の外人選手には引き離されたものの、まだまだ優勝争いを出来る位置でチームに流れをつける走りを披露し、先頭とは1'56'差で4区にタスキを渡しました。

4区の土屋は今回が引退レースとなり、脚の故障でほぼ練習が消化出来ていない状況でしたが、競技人生最後のレースを噛みしめながら、先頭と2'40'差で5区へ。

5区の加藤は先週の奥むさし駅伝での快走を自信に、先輩の石原が持つ区間記録を更新する走りを目指し終始安定した伸びのある走りを披露、石原の記録には惜しくも2秒足らなかったものの、区間賞の走りで、先頭の武蔵野学院とは2'08'差、2位の日本薬科大とは37'差と、前を走る2チームとの差を確実に詰める走るでアンカー石原にタスキを渡しました。

最終6区を任された石原は、マラソンランナーには物足りない6kmの距離をひたすらに前2チームを追う走りで見事区間賞を獲得、2位の日本薬科大に僅か100mのところまで詰め寄りましたが、先頭からは1'58'差の総合3位でレースを終えました。

ShinDengen /



1区 小原



2区 平塚



3区 親崎



4区 土屋



引退レースとなった土屋



5区 加藤



6区 石原

ShinDengen

【総括】

今回、優勝には手が届きませんでした。引退レースとなった土屋に花道を飾ろうとチーム一丸となって戦い、選手皆が気持ちを一つにしてレースを終えることが出来ました。これも一重にご声援を頂きました多くの皆様の後押しのお蔭と確信しております。

最後になりますが、今大会も早朝から沿道に駆け付けてご声援を頂きました鈴木社長、田中取締役、小島執行役員、会社関係者の皆様、本大会の役員としてご尽力いただいた会社関係者の皆様に、あらためましてチーム一同、御礼申し上げます。

今後も一丸となって精一杯活動して参りますので、引続きチームに対する温かいご声援を賜いますよう宜しくお願い致します。有難う御座いました。



以 上